

---

# いつか鳥になる日

宮森琥珀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつか鳥になる日

### 【Nコード】

N6650A

### 【作者名】

宮森琥珀

### 【あらすじ】

800字超短編コンテストに応募したSSSです。入賞を頂きました。目を通していただけると嬉しいです。

病室というのは嫌なものだ。真っ白くて、閉鎖的で。病人という立場も嫌だ。偽りの笑顔と優しさを甘受せねばならない。

俺は教室の窓から飛び降りた。

その結果、運良く助かったらしく、こうして閉じ込められているのだ。

飛び降りたことに特別な意味など無かった。

そこに空があったから。

ただそれだけのこと。自殺願望があったわけではない。イジメの被害にあっていたわけでもない。

繰り返される毎日の虚無感と、居場所が見つからない教室の中で、窓から見える青はひたすらに眩しかったんだ。

窓を開けると、ふんわりとした風が鼻腔をくすぐって。その時、不意に教室のざわめきがスツと聞こえなくなつた。

誰かに呼ばれているような、何かが待ちうけているような、そんな感じがした。

何も考えず、窓枠を蹴っていた。

両手を広げて、深い青を目指して。

しかし、俺に翼はない。空に届かず、堅い地へと墮ちた。

ふと、扉がノックされる。そういえば、今日から「面会謝絶」という札が外されているのだったか。

そろりそろりと入ってきたのは唯一の友だった。彼は青白い真顔で、起き上がる俺を凝視した。

そして、早足で近づくと、何も言わずに俺を殴りつけた。

「ばか！」

たった一言ぶつけられた罵声と、頬に感じる痺れ。目の前で慟哭し始めた親友。それらが、じわりと胸に染みだ。

俺は生きてる。生きているんだ。

当たり前のことを再認識して、己の鼓動を嬉しく思った。

きつと、もう空に呼ばれたりはしないだろう。俺はここにいる。

……ここに、いたいから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6650a/>

---

いつか鳥になる日

2010年10月9日21時47分発行